

韓国大統領選挙運動のフィールドワーク的研究

Field work study on 2017 Korean Presidential election

亀ヶ谷 雅彦

KAMEGAYA Masahiko

要旨

本論文では、2017年に行われた韓国の第19代大統領選挙におけるフィールドワーク結果を元に、世論調査結果の考察、投票所来場者の行動観察と決定木分析、選挙ロゴソングの内容分析などを行った。そして、若年層の選挙参加の高さや、選挙運動に見られる大衆性や汎世代性への指向といった特徴について考察した。

キーワード：韓国大統領選挙、選挙ロゴソング、フィールドワーク、決定木分析、内容分析

1. はじめに

筆者はこれまで日本国内の選挙の現場に赴いてフィールドワーク的な手法を用いた研究をいくつか行ってきた（亀ヶ谷 1998、2018a、2018b）ので、外国の選挙現場でもフィールドワークをしてみたいと考えていた。また、大統領選挙は日本に存在しない選挙制度なので、一体どのように行われるのかにも関心があった。

そのような中、2017年に急遽行われた韓国の第19代大統領選挙に際して、現地を訪れてフィールドワークを行うことができた。

筆者は2000年代から韓国ポピュラー音楽（K-POP）をよく聴いており、毎年のように韓国を訪れているため、地理や韓国語、音楽事情はある程度理解できるものの、韓国政治の専門家ほど詳しくはない。また、本論文で行った「フィールドワーク」も、短い滞在期間のうちに韓国各地を巡って、選挙運動の表層をわずかに触れて回った程度のものでしかない。

それでも、異なる政治文化の下で過ごしてきた筆者が、「境界人」としてその時、その場所にいることで、そこに住む人々が生きている「選挙」の世界を、部分的にでも垣間見ることくらいはできるだろう。

このような観点から、本論文では、上に述べたフィールドワークの結果を元に、投票所に来場する有権者の傾向や、選挙ロゴソングを用いた選挙運動に焦点を当てて分析を行い、韓国の大統領選挙に見られる特徴について考察したいと思う。

2. 第19代韓国大統領選挙について

2.1 選挙の経緯

第19代韓国大統領選挙は、前大統領の罷免、逮捕という大きな政治変動の中で行われた。

2016年7月には財団をめぐる疑惑が、10月には朴槿恵（パク・クネ）大統領の支援者だった崔順実（チェ・スンシル）のパソコンに機密書類が保存されていたというテレビ報道がなされたことを契機にして、10月29日から毎週土曜日に朴大統領の辞任を求める「ろうそく集会」が開かれるようになった（朝日新聞2017年3月10日）。

「不通」と呼ばれた政権内でのコミュニケーション不足、修学旅行中の高校生が大勢亡くなった2014年4

月のセウォル号沈没事故への対応、マスコミへの介入、2016年総選挙における「親朴派」を重視した公認決定と総選挙の敗北といったことも積み重なって、2016年12月に国会が朴大統領の弾劾訴追を決議したことにより、その大統領権限が停止された。

2017年3月10日に憲法裁判所が罷免の判決を出すと朴大統領は失職し、不逮捕特権を失った。そして3月31日に、朴前大統領は職権乱用権利行使妨害、強要、公務上秘密漏洩、収賄などの容疑で逮捕された（朝日新聞 2017年3月22日）。韓国で大統領経験者が退任後に逮捕されたのは、1995年に内乱罪や不正蓄財などに問われた盧泰愚（ノ・テウ）と全斗煥（チョン・ドゥファン）以来、22年ぶり3人目であり、任期途中での退任は1987年の民主化以降初めてのことであった（朝日新聞 2017年4月1日）。

このような大統領の罷免・逮捕という状況の中で、各政党は予備選挙や世論調査などで大統領選候補者を選定し、4月17日から選挙期間が始まった。

候補者は15人（うち2人は選挙前に辞退）であったが、野党「共に民主党」の文在寅（ムン・ジェイン）候補の支持率が選挙前から優勢のままで推移した。同じく野党「国民の党」の安哲秀（アン・チョルス）候補は、保守層を意識した発言を続け、THAAD（サード、米軍の高高度迎撃ミサイルシステム）の韓国配備を「しっかりしなくてはならない」と明言していたが（朝日新聞 2017年4月15日）、4月23日のテレビ討論会での主張がテーマを外れたものであったことから政策的論争を期待した支持者の失望を買い、大きく支持を失うこととなった（山下 2018）。一方で、与党「自由韓国党」の洪準杓（ホン・ジュンピョ）候補は選挙期間の終盤でやや持ち直したものの、支持率は低迷した。

投票日は5月9日で、即日開票された結果、文在寅候補が得票数13,423,800票（得票率41.08%）で当選した。洪準杓候補は7,852,849票（24.03%）、安哲秀候補は6,998,342票（21.41%）だった。投票率は77.2%で前回2012年の75.8%を上回った。通常は当選から就任まで約2ヶ月間の政権移行期間があるが、朴前大統領が失職しているため、引き継ぎ期間がない新政権の船出となった（朝日新聞 2017年5月10日）。

2.2 世論調査の動向

韓国ギャラップは、2017年5月10～11日に全国の大統領選投票者1008名に対して選挙事後調査を行った⁽¹⁾。調査方法は携帯電話RDD標本フレームから無作為抽出（家電話RDD18%を含む）した上で、電話調査員によるインタビュー、応答率は20%（総通話5053名中1008名が応答完了）だった。

以下、この調査結果について述べていく。

まず、候補者支持率の推移に関しては、2016年6月以降、文在寅候補が終始優勢であった。主要政党の候補が確定した2017年4月には安哲秀候補の支持率が急に高まったが、その後は下降した。

今回の選挙で投票した候補者別に投票者の属性を見てみると、大邱／慶北、釜山／蔚山／慶南、60代以上、無職・引退・他、保守を選択した投票者では洪準杓に投票したと回答する割合が最も大きいものの、これらを除いた他の全ての属性では、文在寅候補に投票したと回答した割合が大きかった。性別や生活水準別においては、どのカテゴリーでも文在寅候補に投票した割合が大きい。また、安哲秀候補の地元であった全羅道においても文在寅候補の得票割合が勝っていることから、地域ごとの党派性の度合いの差は以前より弱まったと考えられる（表1）。

特定の候補者に投票した理由について2つまで尋ねると、文在寅候補は「積弊清算/改革/刷新」（20%）、「政権交代」（17%）、「人物/イメージが良くて」（14%）、「他候補よりまさって/他候補が嫌で」（12%）、「頼もしい/信頼」（11%）、「政策/公約が良くて」（11%）など、主に信頼性の高い有能なイメージが目立つとされる（表2）。

他方、洪準杓候補への投票理由は「国家安保/国家観」（23%）、「保守だから」（17%）、「他候補よりまさって/他候補が嫌で」（12%）、「迫力がある/強い/遠慮ない」（12%）など、選挙期間中に強調した「強い大統領候補」のイメージに合致する内容が主であるとされる。安哲秀候補への投票理由では「正直/真実」（17%）、「既成政治家と違う/斬新」（17%）、「4次産業革命/未来準備」（15%）、「きれい/純粹」（15%）など、

(表1) 今回の選挙で投票した候補

2017年5月10～11日		事例数 (名)	投票候補					
			文在寅	洪準杓	安哲秀	劉承旼	沈相奭	他候補
第19代大統領選投票者		1,008	36%	21%	19%	6%	5%	0%
地域別	ソウル	199	35%	18%	23%	7%	5%	10%
	仁川/京義	301	35%	19%	20%	5%	6%	15%
	江原	31	-	-	-	-	-	-
	大田/世宗/忠清	105	41%	21%	15%	7%	6%	10%
	光州/全羅	101	53%	3%	28%	2%	2%	11%
	大邱/慶北	102	24%	40%	5%	11%	5%	15%
	釜山/蔚山/慶南	157	29%	31%	16%	5%	6%	13%
	済州	12	-	-	-	-	-	-
性別	男性	500	35%	21%	20%	7%	5%	12%
	女性	508	36%	21%	17%	5%	5%	14%
年齢別	19-29歳	176	40%	6%	13%	13%	13%	16%
	30代	178	50%	12%	15%	6%	5%	11%
	40代	208	45%	12%	22%	5%	6%	10%
	50代	201	30%	26%	23%	6%	3%	11%
	60代以上	245	20%	41%	20%	2%	1%	16%
職業別	農林漁業	30	-	-	-	-	-	-
	自営業	129	35%	27%	15%	10%	6%	7%
	ブルーカラー	128	32%	18%	26%	7%	5%	12%
	ホワイトカラー	358	44%	12%	18%	6%	6%	13%
	家庭主婦	199	34%	29%	16%	3%	2%	16%
	学生	56	29%	6%	16%	15%	18%	16%
	無職/引退/他	108	24%	32%	25%	3%	3%	13%
生活水準別	上/中の上	158	42%	17%	23%	5%	5%	9%
	中	419	37%	23%	17%	5%	5%	12%
	中の下	224	36%	15%	19%	9%	8%	11%
	下	180	29%	22%	20%	5%	5%	18%
理念性向別	保守	271	11%	53%	17%	8%	2%	8%
	中道	258	34%	13%	23%	9%	7%	14%
	進歩	319	65%	1%	15%	3%	8%	7%
	わからない/応答拒絶	160	22%	18%	22%	3%	3%	30%

(注) 40事例未満は数値を提示しない。韓国ギャラップ 第19代大統領選事後調査 www.gallup.co.kr

(表2) 文在寅候補に投票した最も大きな理由

積弊清算/改革/刷新	20%
政権交代	17%
人物/イメージが良くて	14%
他候補よりまさって/他候補が嫌で	12%
頼もしい/信頼	11%
政策/公約が良くて	11%
政党が良くて	7%
正直だ/良心的	7%
経験/経歴が良くて	6%
能力が良くて/よくできそうで	6%
盧武鉉前大統領との関係	5%
コミュニケーションをよくできそうで	5%

(注) 2つまで自由応答。5%以上のもの。投票者361名。
韓国ギャラップ 第19代大統領選事後調査
www.gallup.co.kr

(表3) 文在寅候補が掲げた公約や言葉で最も気に入ったこと

経済/働き口	16%
積弊清算	11%
国民統合/包容/安定	6%
国らしい国	5%
公平な社会/正当な社会	4%
基礎年金/老齢年金/老人	2%
育児/幼稚園	2%
痴呆患者国家責任	2%
コミュニケーション/協治	2%
動物福祉	2%
その他	23%
わからない/応答拒絶	27%

(注) 1つまで自由応答。文在寅の公約/主張は上位10個。
投票者361名。韓国ギャラップ 第19代大統領選事後調査
www.gallup.co.kr

既存の政治家と異なる期待感を表したとされる。

各候補が掲げた公約や言葉で最も気に入ったことについての質問では、文在寅候補への投票者は「経済/働き口」(16%)、「積弊清算」(11%)、「国民統合/包容/安定」(6%)、「国らしい国」(5%)などを多く挙げ、選挙キャンペーンコンセプトやスローガンなどを均等に言及したとされる(表3)。

投票候補を決定する時に最も多く参考にしたメディアでは、TV討論が59%と最も多く、次いで新聞・放送報道(23%)、インターネットニュース(17%)と続く。家族や周囲の人の意見を最も参考にした投票者は14%に留まり、マスメディアやインターネットニュースをより参考に行っていることがうかがえる。年齢別に見ると30代以下では新聞・放送報道の割合が低く、TV討論やインターネットニュース、SNSなどを挙げる割合が高い。また文在寅候補へ投票した人は、TV討論やインターネットニュースを最も参考とした割合が比較的高い一方、洪準杓候補へ投票した人はTV討論や新聞/放送報道を最も参考とした割合が比較的高く、インターネットニュースやSNSを最も参考とする割合は比較的低かった(表4)。

続いて、投票日直前に実施された韓国ギャラップの「デイリーオピニオン第258号(2017年5月7～8日)」の世論調査結果⁽²⁾から政党支持についてみると、「共に民主党」が35%、「自由韓国党」が15%、「国民の党」が14%と続き、「政党支持なし・意見留保」は19%に留まった。これは「支持なし層」が最も多い日本の政党支持の傾向と大きく異なっている。

また、平素から支持する候補や政党を明らかにする方と答えた人は46%、そうではないは51%で、全体の半数弱の人々は支持候補や支持政党を公言している(表5)。

さらに、投票を通して韓国の政治を「変えることができる」と考える回答者は68%、「そうでない」は22%であり、2015年10月1週(6～8月)の世論調査結果(「変えることができる」52%、「そうではない」40%)よりも、「変えることができる」と考える回答者が多くなっている(表6)。平素の政治関心の程度についても、「関心がある」が75%(うち「沢山ある」が36%、「若干ある」が39%)と非常に高い(表7)。

後述するように、今回のフィールドワークでは事前投票日や投票日に老若男女を問わず、多くの人々が投票所を訪れる姿が見られたが、このような政治関心度の高さや「支持政党なし」の少なさ、「投票で政治が変えられる」という政治的有効感の高さが、高い投票率にも結びついていると考えられよう。

3. 選挙運動のフィールドワーク

筆者は2017年5月5日から10日まで韓国を訪れ、ソウル、釜山、光州の三都市を回って選挙遊説現場などの取材を行った。以下、その経緯をまとめる。

5月5日 ソウル

仁川国際空港に到着して、ちょうど出国階(3階)Fカウンター前に設けられていた事前投票所を訪れた。老若男女偏りなく大勢の人が長い列を作って並んでいる様子が、大統領選への人々の関心の高さを示しているようで、強く印象に残った(図1)。

山田(2017)によれば、期日前投票(本論文でいう事前投票のこと)は5月4日と5日に韓国内の3,507か所で実施され、大統領選では初めての実施だった。仁川国際空港をはじめ、ソウル駅や龍山駅といった首都圏の主要駅などにも投票所が設置され、投票期間は2日間のみと限られるものの、事前の手続きは不要で、有権者は身分登録証



(図1) 事前投票所に並ぶ人々
(2017年5月5日 仁川国際空港)

(表4) 投票候補を決定する時に最も多く参考にしたもの

	事例数(名)	投票候補決定時参考媒体							
		TV討論	新聞/放送報道	インターネット ニュース	家族/周囲の人	フェイスブック、 カカオトーク などSNS	選挙遊説	選挙公報/張り 紙	新聞放送イン ターネット広告
第19代大統領選投票者	1,008	59%	23%	17%	14%	12%	11%	7%	6%
地域別									
ソウル	199	60%	31%	20%	16%	13%	8%	6%	7%
仁川/京義	301	59%	21%	14%	10%	12%	14%	8%	8%
江原	31	-	-	-	-	-	-	-	-
大田/世宗/忠清	105	59%	21%	17%	9%	11%	10%	9%	4%
光州/全羅	101	44%	21%	21%	23%	10%	9%	5%	9%
大邱/慶北	102	68%	21%	12%	17%	10%	11%	6%	4%
釜山/蔚山/慶南	157	62%	20%	17%	15%	17%	12%	5%	4%
済州	12	-	-	-	-	-	-	-	-
性別									
男性	500	57%	24%	19%	11%	12%	8%	7%	8%
女性	508	61%	21%	16%	17%	13%	13%	7%	5%
年齢別									
19-29 歳	176	70%	10%	27%	15%	25%	10%	7%	7%
30 代	178	64%	15%	24%	16%	19%	9%	12%	5%
40 代	208	55%	29%	21%	14%	11%	12%	6%	8%
50 代	201	56%	27%	16%	10%	8%	11%	4%	7%
60 代以上	245	55%	28%	3%	15%	3%	11%	7%	5%
職業別									
農林漁業	30	-	-	-	-	-	-	-	-
自営業	129	52%	29%	14%	13%	12%	9%	6%	11%
ブルーカラー	128	56%	18%	16%	17%	12%	22%	5%	6%
ホワイトカラー	358	64%	22%	24%	13%	14%	7%	7%	7%
家庭主婦	199	57%	23%	11%	14%	8%	13%	8%	4%
学生	56	70%	14%	36%	9%	27%	6%	1%	7%
無職/引退/他	108	51%	23%	10%	16%	7%	12%	14%	6%
理念性向別									
保守	271	69%	26%	8%	16%	9%	14%	4%	5%
中道	258	60%	21%	23%	13%	13%	8%	8%	10%
進歩	319	57%	25%	26%	13%	17%	9%	7%	6%
わからない/応答拒絶	160	47%	16%	9%	15%	6%	12%	10%	4%
主要投票候補別									
文在寅	361	57%	23%	28%	13%	14%	6%	7%	6%
洪準杓	211	70%	22%	6%	14%	5%	17%	7%	5%
安哲秀	188	43%	30%	16%	16%	10%	15%	6%	11%
劉承旼	59	82%	19%	14%	4%	19%	8%	4%	13%
沈相奭	54	90%	21%	16%	13%	32%	3%		
候補応答拒絶	130	52%	16%	12%	16%	9%	11%	12%	5%

(注) 本人の考え/判断2%、その他1%。わからない/応答拒絶10%。

2つまで応答、40事例未満は数値を提示しない。韓国ギャラップ 第19代大統領選挙事後調査 www.gallup.co.kr

第18代大統領選挙事後調査：TV討論54%、新聞/放送報道23%、インターネット19%、家族/周囲の人13%。

(表5) 平素、周辺の人に支持する候補や政党を明かす方か

2017年5月7～8日 (D-2,1)		事例数 (名)	目標割当 事例数 (名)	平素支持候補や政党を		
				明かす方だ	そうではない	わからない /応答拒絶
全体		2,030	2,030	46%	51%	3%
地域別	ソウル	392	400	46%	51%	3%
	仁川/京義	598	606	46%	51%	3%
	江原	60	62	44%	52%	4%
	大田/世宗/忠清	215	212	46%	53%	1%
	光州/全羅	212	204	46%	51%	3%
	大邱/慶北	211	205	51%	46%	3%
	釜山/蔚山/慶南	319	317	43%	52%	4%
	済州	23	25	-	-	-
性別	男性	1,025	1,006	48%	50%	2%
	女性	1,005	1,024	44%	52%	4%
年齢別	19-29歳	345	355	41%	57%	3%
	30代	339	358	51%	49%	1%
	40代	412	418	49%	49%	2%
	50代	415	405	52%	47%	1%
	60代以上	519	494	39%	53%	7%
支持政党別	国民の党	293	288	40%	56%	4%
	共に民主党	700	710	54%	44%	3%
	正しい政党	155	157	49%	50%	1%
	自由韓国党	307	300	51%	46%	4%
	正義党	169	170	59%	40%	1%
	なし・意見留保	379	379	26%	69%	5%
職業別	農林漁業	57	55	46%	46%	8%
	自営業	299	293	49%	49%	2%
	ブルーカラー	227	225	45%	51%	4%
	ホワイトカラー	697	708	49%	49%	1%
	家庭主婦	424	422	42%	53%	5%
	学生	125	129	43%	56%	2%
	無職/引退/他	201	199	41%	54%	4%
理念性向別	保守	509	504	47%	51%	2%
	中道	539	542	42%	57%	1%
	進歩	668	675	57%	41%	2%
	わからない/応答拒絶	314	310	28%	62%	10%
主要支持候補別	文在寅	762	772	55%	43%	2%
	洪準杓	359	352	51%	45%	4%
	安哲秀	355	351	36%	62%	3%
	劉承旼	133	135	42%	57%	1%
	沈相奵	130	133	55%	44%	1%
	なし・意見留保	278	276	25%	67%	7%
投票を通して 政治を	変えることができる	1,382	1,389	52%	45%	2%
	そうではない	456	452	33%	65%	2%

(注) 50事例未満は数値を提示しない。韓国ギャラップ デイリーオピニオン第258号 www.gallup.co.kr

(表6) 投票を通して韓国の政治を変えることができると思うか

		調査完了 事例数(名)	目標割当 事例数(名)	投票を通して韓国の政治を		
				変えること ができる	そうではない	わからない /応答拒絶
2015年10月1週(6～8日)		1,003	1,003	52%	40%	8%
2017年5月7～8日(D-2,1)		2,030	2,030	68%	22%	9%
地域別	ソウル	392	400	72%	19%	9%
	仁川/京義	598	606	69%	22%	8%
	江原	60	62	70%	13%	16%
	大田/世宗/忠清	215	212	67%	23%	10%
	光州/全羅	212	204	77%	16%	7%
	大邱/慶北	211	205	59%	30%	11%
	釜山/蔚山/慶南	319	317	64%	27%	9%
	済州	23	25	-	-	-
性別	男性	1,025	1,006	69%	24%	7%
	女性	1,005	1,024	68%	21%	12%
年齢別	19-29歳	345	355	78%	18%	4%
	30代	339	358	74%	19%	7%
	40代	412	418	73%	21%	5%
	50代	415	405	65%	30%	6%
	60代以上	519	494	56%	22%	22%
支持政党別	国民の党	293	288	67%	25%	9%
	共に民主党	700	710	83%	12%	5%
	正しい政党	155	157	67%	27%	6%
	自由韓国党	307	300	55%	31%	14%
	正義党	169	170	77%	20%	3%
	なし・意見留保	379	379	50%	32%	18%
職業別	農林漁業	57	55	56%	24%	19%
	自営業	299	293	67%	26%	7%
	ブルーカラー	227	225	58%	33%	9%
	ホワイトカラー	697	708	76%	21%	3%
	家庭主婦	424	422	61%	21%	18%
	学生	125	129	84%	13%	3%
	無職/引退/他	201	199	66%	16%	18%
理念性向別	保守	509	504	61%	30%	9%
	中道	539	542	71%	24%	6%
	進歩	668	675	82%	15%	3%
	わからない/応答拒絶	314	310	48%	24%	29%
主要支持候補別	文在寅	762	772	83%	12%	4%
	洪準杓	359	352	54%	32%	14%
	安哲秀	355	351	67%	24%	9%
	劉承旼	133	135	65%	27%	7%
	沈相奵	130	133	71%	23%	6%
	なし・意見留保	278	276	48%	31%	22%

 (注) 50事例未満は数値を提示しない。韓国ギャラップ デイリーオピニオン第258号 www.gallup.co.kr

(表7) 平素、政治にどのくらい関心があるか

2017年5月7～8日（D-2,1）		調査完了 事例数 （名）	目標割当 事例数 （名）	平素政治関心度					
				関心があ る（計）			別にない	全然ない	わからな い/応答 拒絶
					沢山ある	若干ある			
全体		2,030	2,030	75%	36%	39%	18%	5%	2%
地域別	ソウル	392	400	77%	38%	40%	16%	5%	2%
	仁川/京義	598	606	76%	37%	39%	18%	6%	1%
	江原	60	62	72%	39%	33%	21%	3%	4%
	大田/世宗/忠清	215	212	75%	34%	41%	17%	6%	3%
	光州/全羅	212	204	73%	36%	37%	19%	4%	3%
	大邱/慶北	211	205	75%	34%	40%	18%	4%	3%
	釜山/蔚山/慶南	319	317	72%	32%	40%	22%	5%	1%
	済州	23	25	-	-	-	-	-	-
性別	男性	1,025	1,006	79%	43%	37%	15%	5%	1%
	女性	1,005	1,024	71%	29%	41%	21%	5%	3%
年齢別	19-29歳	345	355	74%	24%	51%	18%	7%	0%
	30代	339	358	79%	35%	44%	14%	6%	1%
	40代	412	418	80%	42%	37%	16%	3%	1%
	50代	415	405	78%	39%	39%	18%	4%	0%
	60代以上	519	494	65%	36%	28%	23%	6%	7%
	支持政党別	国民の党	293	288	75%	34%	41%	22%	3%
共に民主党		700	710	84%	41%	43%	13%	2%	1%
正しい政党		155	157	76%	33%	43%	20%	4%	
自由韓国党		307	300	74%	40%	34%	20%	4%	2%
正義党		169	170	85%	50%	35%	12%	2%	1%
なし・意見留保		379	379	54%	20%	34%	25%	14%	6%
職業別	農林漁業	57	55	65%	31%	34%	17%	11%	7%
	自営業	299	293	81%	40%	40%	15%	4%	1%
	ブルーカラー	227	225	72%	37%	36%	22%	6%	
	ホワイトカラー	697	708	81%	43%	38%	14%	4%	1%
	家庭主婦	424	422	66%	26%	41%	24%	5%	4%
	学生	125	129	73%	19%	54%	20%	5%	1%
	無職/引退/他	201	199	69%	36%	33%	18%	7%	6%
理念性向別	保守	509	504	76%	38%	38%	19%	4%	1%
	中道	539	542	75%	31%	44%	20%	4%	1%
	進歩	668	675	84%	43%	41%	13%	2%	1%
	わからない/応答拒絶	314	310	52%	25%	28%	24%	14%	10%
主要支持 候補別	文在寅	762	772	85%	42%	43%	11%	2%	1%
	洪準杓	359	352	72%	39%	34%	21%	4%	2%
	安哲秀	355	351	75%	32%	43%	20%	3%	1%
	劉承旼	133	135	72%	31%	41%	25%	3%	
	沈相奵	130	133	71%	30%	41%	21%	6%	2%
	なし・意見留保	278	276	54%	25%	30%	26%	14%	6%

(注) 50事例未満は数値を提示しない。韓国ギャラップ デイリーオピニオン第258号 www.gallup.co.kr

(16歳以上の国民に発行され、携帯が義務付けられている)があれば全国どの投票所でも投票が可能だった。

5月5日は韓国でも「子供の日」の休日で、天気もよかったので、明洞、光化門とも人出が多かった。仁川国際空港からソウルへ移動すると、ソウル広場には、朴大統領弾劾反対の人々がテントで泊まり込んでいた。太極旗と星条旗を立て、集会の音声を流しているが、人の気配はあまりなかった(図2)。

そこから歩いてすぐの光化門広場には、セウォル号追悼のテントブースが設置されていた。その他にも、米国大使館前付近にはTHAAD反対のプラカードを持った人々がおり、さらに毛筆で何かを書く文化イベントのテントや、キリスト教の若者の団体もいた。このように、韓国では普段から市民による様々なデモンストレーションが行われているようだ。

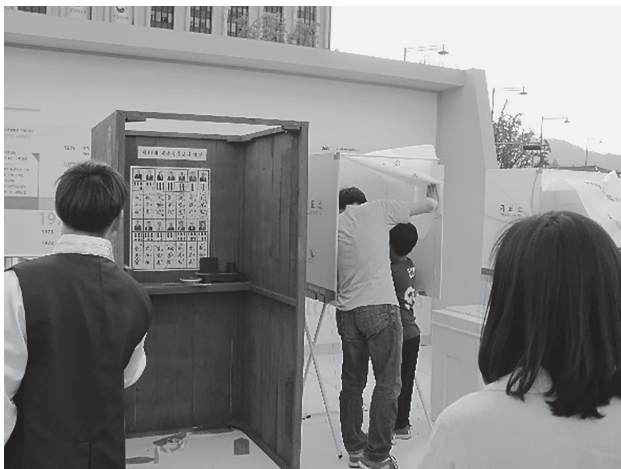
光化門広場の中を景福宮近くまで歩くと、そこではテレビ局のSBSによる「国民の選択」イベントが開催されており、写真展示館や今昔の投票箱・記入台模型の展示、大統領の机とイスのセット、さらには、ヒップホップ歌手のように描かれた大統領選候補者の看板などがあった。



(図2) 朴大統領弾劾反対の人々のテント
(2017年5月5日 ソウル広場)



(図3) セウォル号追悼のテントブース
(2017年5月5日 光化門広場)



(図4) SBS「国民の選択」イベント会場の様子(2017年5月5日 光化門広場)



筆者は2016年の国会議員選挙の時にもソウルを訪れているが、清溪川付近の選挙啓発イベントにくらいしか「選挙らしさ」を感じられなかった。が、今回は街に選挙らしい雰囲気が溢れていた。

宿に戻ってテレビを見ると、選挙報道に抑制的な日本のテレビ局とは異なり、韓国のテレビニュースでは連日、各地の選挙遊説の様子を報じており、また大統領候補者によるテレビ討論会を何度も行ったようだ。

5月6日 ソウル

ツイッターで各候補の選挙遊説日程を確認し、文在寅候補のソウル江南圏遊説へ行くことにした。

17:30からの予定だったが、開催場所であるCOEXモール横の現代百貨店前に16:41に到着すると、既に遊説は始まっていた。

会場では「0509 06:00～20:00 投票!」と、投票日の日時が印字された青い風船をもらった。荷台がステージになっていて電光スクリーンを背景につけた宣伝トラックが奥に停まっており、車のそばには等身大の文在寅の写真パネルがおいてあった(図5)。



(図5) 文在寅候補の選挙遊説(2017年5月6日 江南区 現代百貨店前)

5月にもかかわらず暑い。宣伝トラックのステージ上では、KOYOTE「純情」の替え歌が歌われ、弁士が順番に応援演説をしていた。手話通訳も壇上にいる。運動員や弁士は文在寅候補のシンボルカラーである青色に、背番号の代わりに文在寅候補の投票記号である「1」が書かれている野球のユニフォームに似た服を着ていた。聴衆は老若男女を問わず、どの世代もまんべんなく集まっていた。子供連れの若いカップルもいた。

ステージ上では文在寅候補を応援する政治家の紹介がなされた後、ヒップホップ歌手のリア、金メダル女子選手(氏名不明)、大ヒットドラマ「未生(ミセン)」の原作漫画家であるユン・テホ、ヒップホップグループ「カリオン」のMCメーターといった、特に若年層に親しみのある有名人たちが演説した。これらの選挙演説においては、弁士と聴衆が「掛け合い」をするのが印象的で、1番目、2番目と推薦するポイントを番号づけて訴えながら「(こういう候補は)誰ですか?」と聴衆に何度も問いかけ、聴衆は「文在寅」と答えるのである。また「5年間準備してきた大統領」を強調したり、聴衆に「文在寅」コール(3回繰り返す)をさせたりもしていた。

聴衆がかなり多く集まったので、安全のため、前の方の聴衆から座らせられた。右前方の植え込みに登って見ている人へは、聴衆が「降りてこい」とコールをして呼びかけていた。

17:30には選対本部長が演説し、「新しい大統領は誰か?」や「国を国らしく」(文在寅候補のスローガン)に言及した。松坡(ソンパ)区の国会議員の演説の後は、KOYOTE「純情」、DJ DOG「Run To You」、

曲名不明の歌（共に民主党の歌か？）の替え歌がスピーカーから流され、ステージの上で運動員がダンスを踊った。

17：41に文在寅候補が登場すると、座っていた観客が一齐に立ち上がってスマホで撮影を始めた。人垣に遮られて声は聞こえたものの、文在寅候補はその場からは見えず、後から写真に映り込んでいた姿でやっと確認できるほどだった。演説の途中なのに、あまりに聴衆が多くて文在寅候補の姿が見えなかったために、帰る人もちらほらいた。

文在寅候補はじっくりゆっくり話すので、筆者のつたない韓国語能力でも何となく聞き取れる。言葉がよく分からない分、かえって身振りや声など非言語的コミュニケーションの特徴に目が行った。公約の話、事前投票の話、「トデムン」（「投票しないと大統領が文在寅にならない」の頭文字をつなげた造語）の話。支持率を圧倒的にしないといけない。中国に物を言うのは文在寅。「国を、国らしく」。そして、「～は誰ですか？」と聴衆に問いかけて「文在寅」コールや「はいい」という返事を受け取るといったように、文在寅候補もまた聴衆と掛け合いをしていた。

日本では選挙の終盤戦になると、連日の演説で声が枯れている弁士の姿をよく見るが、文在寅候補の声は枯れていなかった。これは選挙遊説よりもテレビ討論が主な選挙運動の手段となっていることの現われかもしれない。

ちなみに、候補者の顔写真が大きく印刷された選挙ポスターは掲示場所のみに貼ってあるが、候補ごとに交差点やビルの壁面に掲げてある顔写真入りの横断幕や大きな垂れ幕の方が目立っていた。この横断幕タイプの広告は、選挙広告以外にも沢山あったので、韓国では一般的な広告手法なのかもしれない。



(図6) 選挙ポスターと各候補者の横断幕（2017年5月6日 鐘路区 梨花洞）

18：15に文在寅候補の演説が終わると、出発する車を聴衆が見送りしていた。その後もステージ上では再びダンスが始まったが、聴衆はみな帰って行った。聴衆は見物しに来たというよりも応援に来た感じで、アメリカの政党帰属意識に見られるような「ファン」的な支持者に近いのかもしれない。

この日の夜には、セヌリ党の趙源震（チョ・ウォンジン）候補による明洞遊説にも出くわした。20：30に屋台が並ぶ明洞のメインストリートにいと、太極旗と星条旗を持ったおじいさんが、銅鑼をたたきながら散発的に行進していた。ミリオレ前には宣伝トラックが横づけされて、高年層の男女が集まるなか、声を枯らして候補者本人が演説中であつた。候補者名のコールもあり、まるで野球の応援のようだ。道を塞いでいるので、地下鉄の駅へ行きづらく、通行人は大迷惑のようで、警官が大勢で周りを固めていた。横を通り過ぎる時に、候補者の顔写真と政策が両面カラー印刷された選挙ビラを運動員が配っていたので、筆者も受け取った。



(図7) 趙源震候補の選挙遊説(2017年5月6日 中区 明洞)

21時過ぎには、労働団体と思われるデモ行進に出会った。徳寿宮前の交差点をソウル広場側に渡って、光化門広場手前まで行進し、そこで行列の先頭の人々がデモ参加者に向かって演説をしていた。デモの行列と並行して、横の歩道には警官隊も隊列を組んで歩いていた。

前日に見たソウル広場の「テント村」では、演説の音声をスピーカーで流しているが、人の気配はない。21:30過ぎには趙源震候補の応援をしていたと思われる人が「テント村」に帰ってきた。

宿に戻ると、テレビ局のMBCでは文在寅候補の政見放送を放映していた。同じようなスタジオセットで放映される日本の政見放送とは違って、クロマキーで背景に独自のCGを映して、カメラも遠近2ショットを使い分けて撮影されていた。

5月7日 釜山

この日はKTX(韓国の新幹線)で釜山へ赴いた。ここは文在寅候補の地元である。10時頃に到着すると、釜山駅前の広場では、趙源震候補の宣伝トラックが準備の最中だった。

11時ごろ、釜山近代歴史館の脇道から竜頭山公園へ登る階段の前に、プラカードを持った文在寅候補の運動員(若い男女4名くらい)が並び、通行人に見せていた。その手前には文在寅候補の宣伝トラックと運動員がおり、さらにその手前には安哲秀候補の緑色の宣伝トラックが停車していた(図8)。それぞれの宣伝トラックには候補者の番号が表示されているので、どの候補の車なのか分かりやすい。



(図8) 文在寅候補の運動員と垂れ幕(2017年5月7日 左: 龍頭山公園付近 右: 西面駅)

17:10に、カップルで賑わう海雲台ビーチの前を訪れると、洪準杓候補の赤い宣伝トラックが止まっていた。候補者本人はいなかったが、運動員の若い女性たちが野球ユニフォームのような服を着て、一列に並んで踊っている。曲名不明の歌（自由韓国党の歌?）、パク・サンチョル「無条件」、キヨミソングの替え歌などで踊るが、歌詞の中には候補者の番号や名前が織り込まれて歌われている。曲の合間には、議員らしい男女が断続的に演説をしていた（図9）。



（図9）洪準杓候補の選挙遊説（2017年5月7日 左：海雲台ビーチの前 右：チャガルチ市場付近）

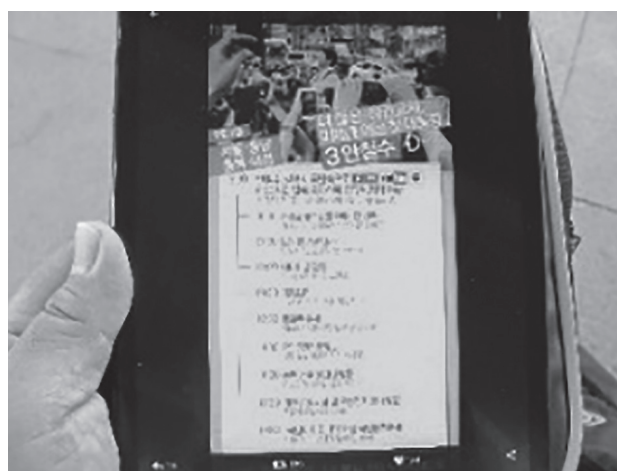
17:35には、洪準杓候補の宣伝トラックから道路をはさんで反対側に、文在寅候補の宣伝トラックが停車した。トラックのステージ上では扮装した男性が一人で踊る。KOYOTE「純情」、DJ DOC「Run To You」、ホン・ジニョン「Thumb up」といった楽曲が使われていた。日本の選挙では、このように候補者同士で演説場所が重なる場合は、どちらかが場所を譲るのに、その気配はない。

ソウルより釜山の方が小さい街だからだろうか、宣伝トラックを多く見かけた。洪準杓候補がたくさん街宣をしていて、BFF通りからチャガルチ市場に渡る道路にも、宣伝トラックと踊り手がいた。野球のユニフォームのような服を着て踊る様子は、プロ野球応援のようだった。このような選挙運動の様子を積極的に見ている人はほとんどいなかったが、音楽につられてリズムをとる人はいた。

5月8日 光州

この日は高速バスで光州へ移動した。地図を見ると釜山～光州間は隣り合っているようだが、鉄道は通じておらず、山中を高速バスで走って2時間半～3時間かかる。ソウルからKTXに乗れば、どちらの都市にもこれより早く到着できる。釜山のある慶尚道は山の中だが、全州に入ると田んぼが広がる風景へ変わり、農産物が豊富な地域である印象を受けた。

光州は安哲秀候補の地元だが、安候補一色にはなっておらず、文在寅候補や洪準杓候補の垂れ幕もよくかかっている。ここでは選挙遊説には出会えなかった（図10）。



（図10）安哲秀候補ツイッターの遊説日程

ここまで選挙遊説の場を見てきた印象をまとめると、横断幕や運動員のいる場所は選挙らしい光景があったが、街の人は普通に働いているし、全国で同じ候補者が選挙運動をしているからか、候補者本人にはなかなか会えなかった。

運動員は背番号のついた野球ユニフォーム風の服を着て、手を振る。そして番号の書かれたフリップを持っている。これらの数字は投票記号の番号になっており、「1」が文在寅候補、「2」が洪準杓候補、「3」が安哲秀候補を表わしている。また、シンボルカラーが候補者ごとにあり、文在寅候補は青色、洪準杓候補は赤色、安哲秀候補は緑色といったように、一目見て区別が付きやすくなっている。

選挙ポスターや大きな横断幕・垂れ幕は色々な場所にあり、LED看板のついた宣伝トラックも何台も走っているが、地方都市では1～3番候補くらいの車しか見かけなかった（投票記号の番号は、候補者の所属政党の議員数が多い順になっている）。

5月9日 ソウル

この日は投票日であるので、光州からソウルに戻った。光州は雨だったが、ソウルは午後に雨が降ったものの、夜には上がった。

宿のテレビで見た日本のNHKニュースでは、今回の大統領選について日韓関係がどうなるかの視点からしか言及していなかった。でも、現地で見聞きする限り、この選挙の争点は安保問題であり、ろうそく民主主義や、新しい政治に変えることであった。

KTX松汀光州駅近くの松汀2洞住民センターが投票所になっていたの、朝9時台に様子を見に行ったが、投票している人は見られなかった。

ソウル到着後、14:20～15:20の1時間、梨花洞第2投票所（ソウル大付設初等学校）前で、来場者の行動観察を行った。圧倒的に一人で投票に来る人が多い。20代女性も多い。カバンを持って、よそ行きの洋服を着ているので、どこかに出かけるついでに、投票所に立ち寄っているようだった。

夜になったので、開票速報番組の生中継を見に光化門広場に行く。ここではテレビ各局が野外セットを作って、集まった観衆を前に、開票速報を生放送していた。光化門広場は普段は観光客で賑わう場所であるが、セウォル号沈没事故や大統領弾劾のろうそく集会が行われた場所でもあり、ソウル広場と並んで、このような政治的なイベントで人々が集まる場所のようだ。「鐘路は政治の一番地」と言われる所以が分かったような気がした。

筆者はケーブルテレビ局のJTBCが「2017私たちの選択」を生放送している舞台の前で見ていたが、クレーンカメラが何本も設置されていて、まるでK-POPの野外コンサートのような舞台セットが組まれている。



(図11) 梨花洞第2投票所（2017年5月9日
鐘路区 梨花洞 ソウル大付設初等学校）



(図12) JTBC「2017私たちの選択」の放送舞台
(2017年5月9日 光化門広場)

20時になると人出が多くなってきて、老若男女を問わず大勢の観衆が集まって、立ったままで生放送の舞台を見ている。若い人やカップル、子供連れも見に来ている。記念写真を撮っている人もいる。警官隊も出動して、観衆たちが歩けるように通路を確保している。そして地域ごとの出口調査結果で文在寅候補が優勢だと報じられる度に、観衆から歓声が上がった。観衆全員が声を上げてはいないが、文在寅優勢以外の結果では歓声はなかった。

開票速報というより、まるでお祭りや新年の年越しイベントのような雰囲気、こんな光景は日本で見たことがない。

誰が当選したかの報道はなかなか出ず、舞台両側の大スクリーンで、地域ごとに出口調査結果を繰り返し見せてばかりいたが、22:15に「文在寅有力」のテロップが出て、22:40には安哲秀候補の「敗戦の弁」の様子が中継された。韓国の開票速報は、このように開票終了時まで待たずに「有力」報道が出され、敗戦の弁、勝利宣言と進むようだ。

他の放送局では当確報道が既に出ていたようだが、筆者が見ていたJTBCではなかなか当確報道が出なかったので観衆は帰って行った。しかし「有力」報道が出てから、再び人が集まり始めた。

開票速報を見ていた場所から、左側の道路をはさんだ向こう側で、何か演説が始まった。これは文在寅候補が勝利宣言をした集会だったようだが、停車していたクレーンカメラの車両が邪魔で、文在寅候補の姿は見えなかった。Twice「Cheer up」の替え歌や「オー、文在寅一番」の歌（「オー！必勝 코리아」の替え歌か）が流されているのが聞こえた。

文在寅候補の勝利宣言集会は、最後は集まった観衆が、ライトを点灯させたスマホを手に持って振りながら歌を歌って、まるで小さなK-POPコンサートのような熱気だった。INFINITE「僕のものにしよう（ネッコハジャ）」、DJ DOC「Run To You」、ホン・ジニョン「Thumb up」といった歌を歌い、午前0時半ごろまで集会は続いた。その前にJTBCの放送は終了したが、KBSの舞台ではその後も放送が続けられていた。セウォル号沈没事故のテントブースでも、演奏と独自の「開票番組」をやっていた。

午前1時になったので宿まで歩いて帰った。午前3時頃に「当選確定」がテレビで報道されると、開票終了を待たずに開票速報番組は終了してしまった。

翌日朝8時のOBSニュースでは、投票率が77%（1.6%アップ）、事前投票が26.1%（驚異的）、世代別では50代までが文在寅候補、60代が洪準杓候補への投票が多く世代差がある、また慶尚道は洪準杓候補が強く、それ以外の地域は文在寅候補への投票が多かったことが報じられていた。そして、テレビ各局は、自宅から出発する文在寅夫妻の様子を生中継していた。

4. 投票来場者の決定木分析

前述したように、今回のフィールドワークの中で、筆者は投票日当日に投票所を訪れた人々を行動観察した。これは、亀ヶ谷（2018a、2018b）と同じ手法を用いており、来場者へのインタビューなどは行わず、ただ観察するだけなので得られる情報には限りがある一方、このように外国でも容易に実行可能な方法でもある。

行動観察は2017年5月9日の14:20～15:20の間、ソウル市内の梨花洞（イファドン）第2投票所で行った。この投票所はソウル大学付設初等学校（小学校のこと）にあり、校門が見える位置に筆者が座って、中に入る人を観察してノートに逐一記録を取った。

この投票所は、地下鉄4号線の恵化駅やマロニエ公園といった、人出の多い場所に位置している一方、壁画村で有名な梨花洞も近く、庶民が住む街の近くでもある。なお、投票日は臨時休日となっており、天候は曇りで、観察終了直後に雨となった。

以下、行動観察の集計結果を述べる。

まず、観察時間中に投票所を訪れた110ケース⁽³⁾の7割が1人で投票に来ており、単独来場者がとても多かった（表8）。

世代別に見ると、複数で投票所に来る場合も、親子のように二世代で来場するケースは全体の1割で、同世代で来るケースの方が多い(表9)。また、未成年と思われる子供連れのケースは観察されなかった。

投票者の交通手段は徒歩が9割以上で、乗り物を使う場合もオートバイや自転車のように単独で乗る物が多かった(表10)。

投票者の性別や年代を集計すると、女性や30代以下の若年層の来場者の割合が高い(表11)。単独で投票所に来た80人についてみると、若年層では女性の来場者が6割に上り、年代が若いほど女性来場者の割合が大きい傾向がある(表12)。

過去の韓国大統領選挙の投票率を見ると、男女差はほとんどない一方、年代別については20代後半で底を打った後、再び上昇するといった傾向があるが、2017年の大統領選ではこの投票率の落ち込みが浅くなって、どの世代もおしなべて投票していることが見てとれる(表13)。若年層の低投票率が問題となっている日本とは異なり、このように若年層の投票率が高い傾向は、今回の行動観察の結果にも現われている。

続いて、投票所来場者の傾向をさらに詳しく探るために、亀ヶ谷(2018a、2018b)で行った分析と同じく、データマイニングソフトの「Weka(ウェカ)」⁽⁴⁾を使って決定木分析を行った。

分析に用いた変数は、ケースごとの男性、女性、若年層、中年層、高年層の人数と、来場者の世代の組み合わせ(単独・同世代・二世代)の6つで、用いた方法はJ45である。

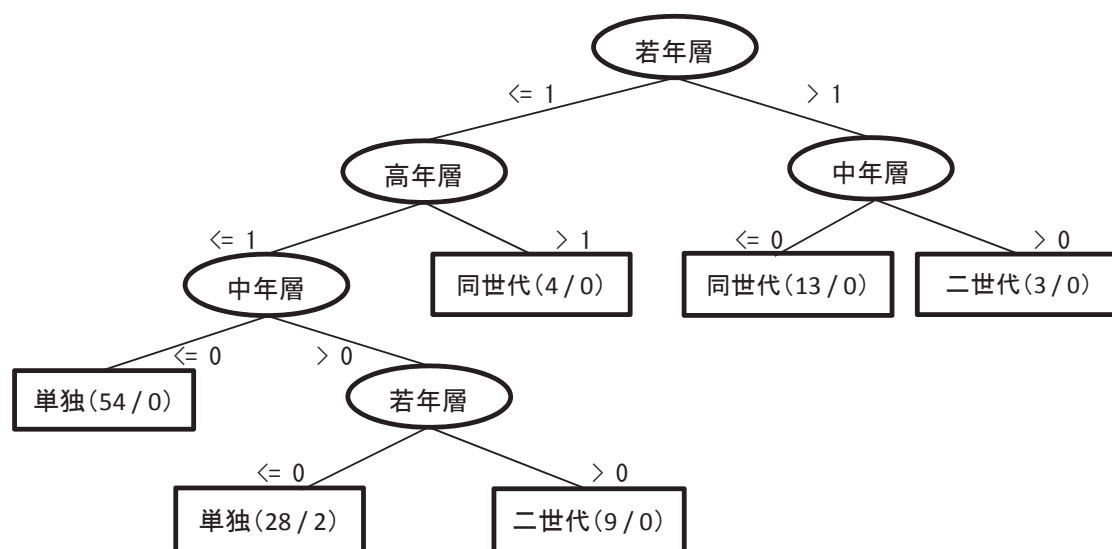
決定木分析を行った結果が、図13である。

これによれば、単独で投票所に来る人は、若年層が1人以下かつ高年層も1人以下で、中年層がいないか、中年層がいて若年層がいないケースが多い。これはつまり、どの世代も単独で投票所に来ているということだ。

次に同世代で投票所に来る人は、若年層が1人以下で高年層が1人を超える組み合わせか、若年層が1人を超え中年層がいない組み合わせが多い。つまり、高年層同士か若年層同士で投票に来ていることになる。

そして、二世代で投票所に来る人は、若年層が1人を超え中年層もいる「親子」のような組み合わせと、若年層と高年層が1人以下で中年層と若年層が1人を超える、つまり若者1人に中年層か高年層が加わった「親子」や「祖父母と孫」のような組み合わせとなっていて、ここでも若年層と一緒に投票に来ている

(図13) 決定木分析の結果



(注) 若年層：19～30代、中年層：40～50代、高年層：60代以上。

変数名の右にある () の数字は「正しく分類されたケース数 / 誤って分類されたケース数」を示す。

(表8) 投票来場者の人数

人数	ケース数	割合
1人	80	72.7%
2人	27	24.6%
3人	2	1.8%
4人	1	0.9%
計	110	100.0%

(表9) 投票来場者の世代

人数	ケース数	割合
単独	80	72.7%
同世代	19	17.3%
二世帯	11	10.0%
計	110	100.0%

(表10) 投票来場者の交通手段

人数	ケース数	割合
徒歩	102	92.7%
オートバイ	4	3.6%
自転車	2	1.8%
トラック	1	0.9%
車いす	1	0.9%
計	110	100.0%

ようである。

なお、男女に関するノードは決定木の中に現れず、投票形態の判別に性差はあまり重要ではなさそうである。

日本の山形県における分析（亀ヶ谷 2018a, 2018b）でも、投票所へ単独で来場する事例が多く見られたが、今回の観察結果ではさらに単独

来場者の割合は多くなっている。前述したように、投票所に来た人の中には、よそ行きの服を着ていたり、カバンを持っていたりする人もいるので、投票することを主目的にして来場した人以外に、外出のついでに投票に立ち寄っている人もいるようであるから、これが単独投票の多さにつながっているのかもしれない。

また、投票所で観察していると、20代の若い人々がカップルや同世代で投票しに来ている姿も目立っていたが、これも日本の投票所ではあまり見られない光景だろう。決定木分析の結果からも、単独や同世代の来場者のみならず、二世帯来場者の中にも若年層が含まれる傾向が見られることから、韓国の若い有権者たちがより多く投票所に足を運んでいることがうかがえる。

(表11) 投票来場者の性別・年代別内訳

	そのケースに				計
	いる		いない		
男性	59	53.6%	51	46.4%	110
女性	66	60.0%	44	40.0%	110
若年層（19～30代）	68	61.8%	42	38.2%	110
中年層（40～50代）	39	35.4%	71	64.6%	110
高年層（60代～）	14	12.7%	96	87.3%	110

(表12) 単独来場者の性別・年代別ケース数

年代	男性		女性		横計
若年層（19～30代）	16	36.4%	28	63.6%	44
中年層（40～50代）	13	50.0%	13	50.0%	26
高年層（60代～）	6	60.0%	4	40.0%	10
縦計	35	43.8%	45	56.3%	80

(表13) 韓国大統領選の投票率

		2007年	2012年	2017年
全体		63.0	75.8	77.2
性別	男子	63.3	74.8	76.2
	女子	63.1	76.4	77.3
年齢集団	19歳	54.2	74.0	77.7
	20代前半	51.1	71.1	77.1
	20代後半	42.9	65.7	74.9
	30代前半	51.3	67.7	74.3
	30代後半	58.5	72.3	74.1
	40代	66.3	75.6	74.9
	50代	76.6	82.0	78.6
	60代以上	76.3	80.9	-
	60代	-	-	84.1
	70代	-	-	81.8
	80歳以上	-	-	56.2

(注) 국가주요지표 선거투표율

(<https://www.index.go.kr/unify/idx-info.do?idxCd=4268>)

5. 選挙ロゴソングの内容分析

5.1 「踊る大選挙戦」と選挙ロゴソング

山田（2017）によれば、韓国の選挙運動はとてにぎやかで、候補者や応援者はポップな音楽に合わせて、踊り歌いながら投票を呼びかけることや、名前を覚えてもらうことに加え、自分のポスターに印刷された番号を覚えてもらうことが非常に重要で、背中に名前よりも数字が大きく印刷されたジャンパーを着て選挙運動をしている姿を見かけると述べている。

このような選挙運動の様子は日韓で新聞記事としても取り上げられている。例えば、2017年5月8日の朝日新聞「踊る大選挙戦、最終盤 韓国大統領選」では、各陣営がダンスパフォーマンスも交えて最終盤の選挙戦で支持を訴えていることや、ソウル市新村（シンチョン）での洪準杓候補の演説後に、おそろいのTシャツを着た若者たちが登場し、候補の「ロゴソング」（選挙広報ソング）にあわせてダンスパフォーマンスを披露して、有権者に支持を訴える光景を伝えている。

他方、2017年4月18日の東亜日報（日本語版）「大統領選候補のロゴソングの政治学」⁵⁾でも、各候補のロゴソングについて述べられている。

これによれば、文在寅候補はガールズグループ「TWICE」の「CHEER UP」の替え歌から、30・40代を狙ったDJ DOCの「Run To You」、中高年層を狙ったナミの「永遠の友」などを選択した。また、投票記号である「1番」を強調するホン・ジンヨンの「オムジチョク（Thumb Up）」の替え歌も使用して、遊説現場で遊説団と共に親指を立てるポーズをよく取る。安哲秀候補は、医療事故で亡くなった故シン・ヘチョル氏の「うなぎの夢」と「あなたに」などを選択したが、これは前の年に「シン・ヘチョル法（医療紛争調整法改正案）」の発議の過程で安氏が助けたことがロゴソングの決定に影響を及ぼした。そして支持率が相対的に低い候補たちは、自分のカラーを明確に表せる曲を選択する傾向があり、洪準杓候補は、人気演歌歌手パク・サンチョルの「無条件」で中高年層の票心を狙い、チョン・スラの「あっ！大韓民国」など愛国心を強調する歌を選び、保守新党「正しい政党」の劉承ミン（ユ・スンミン）候補は、童謡「サメのかぞく」の替え歌で、育児休暇の延長、財閥改革などの公約を強調する戦略であり、左派系野党「正義党」の沈相ジョン（シム・サンジョン）候補は、「真実は沈没しない」などろうそく集会でしばしば流れる曲を選んで誠実さを強調したと報じている。

日韓の新聞記事を読み比べると分かるように、選挙運動において運動員が踊る光景をほとんど見かけない日本人にとっては「踊り」ばかりに目が行く一方で、韓国の選挙運動において重要なのはむしろ、どのような「選挙ロゴソング」を使用しているかということのようである。

もちろん、選挙遊説などでダンスを見せることによって聴衆の耳目を集め、その候補者のイメージを強く印象づけるという効果もあるだろうが、そもそも韓国のポピュラー音楽においては「ダンス曲」が多く、日本の演歌にあたる音楽ジャンルの「トロット」でも、歌手はバックダンサーを従えて歌うことが多い。

このように韓国では、もともと歌にダンスはつきものなのであり、踊りは歌に付随しているだけに過ぎない。従って本論文では、選挙運動で使用されている「選挙ロゴソング」の方に注目して考察を進めていくこととする。

5.2 選挙ロゴソングに関する先行研究

ここでは「選挙ロゴソング」についての先行研究を概観していく。

キム・テハン（2010）は、選挙ロゴソングの歴史や分類、制作費用についてまとめ、さらに選挙ロゴソングとしてトロットが選好される要素についても考察している。

これによると、韓国国外で選挙ロゴソングが登場したのは1950年に行われたアメリカ大統領選のアイゼンハワー共和党候補の時であると言われているが、韓国では1960年2月に逝去した趙炳玉候補を惜しんだ支持者がその気持ちを映画主題曲の「有情千里」の替え歌にして話題となった事例がそれに当たるとする。この当時のロゴソングは今のように入候補者が直接自身をアピールするロゴソングとは異なり、支持者が替

え歌をロゴソングとして作っていた。

その後、民主化と先進化の進行に合わせて選挙ロゴソングも変転して行き、1987年の第13代大統領選では、金泳三候補が「軍政終息歌」というロゴソングで関心を受け、金大中候補も童謡「自転車」の替え歌をロゴソングとして歌った。

本格的にロゴソングが威力を発揮したのはカラオケブームが全国で広まった1990年代中盤以降で、1997年の第15代大統領選では、金大中候補の用いた選挙ロゴソングが若い人の選挙参与率を高めた。

キム・テハン（2010）はまた、選挙ロゴソングのジャンルを以下の6つに分類している。

- ①童謡や民話主題歌型（例：「自転車」、「ワニの群れ」、「走れ、ハニ」）
- ②Rock型（例：ノーブレイン「君に俺は惚れた」、YB「オー！必勝 코리아」、ノラジョ「スーパーマン」）
- ③Dance & Hip hop 型（例：イ・ジョンヒョン「変えろ」、ジヌジョン「言って」、U.kiss「なめてるのか」）
- ④Trot 型（例：パク・ヒョンビン「お兄さんだけ信じて」、チャン・ユンジョン「あらまあ」、パク・サン Chol「無条件」）
- ⑤健全歌謡型（例：ウンヒ「恋歌」、イ・ヨン「ソウル」、チョン・グァンテ「独島は我が領土」）
- ⑥著作権のない選挙ロゴソング（例：「愛国歌」（韓国国歌）、「アジャ！アジャ！アジャ！」、「スマートハンナラ」）

ここで「健全歌謡」とは、国家の音楽統制政策の一環として政府系団体の主導下で制作され歌われた音楽のことである。1980年代には「音盤挿入義務制」という政策により、健全歌謡1曲を新しいレコードに必ず収録する官製歌謡的性格を表した一方で、歌の情緒が商業的大衆歌謡の情緒と似て、放送歌謡番組でかなりの人気を呼んだ^⑥。

選挙ロゴソングは一日中同じではなく、候補者たちはロゴソングをテーマ別に聞かせる時がある。あるロゴソングの宣伝会社では遊説地域別に、都市型・都市農村複合型・農村型とロゴソングを分けて、ジャンルの多様性を構成していた。また、2009年3月のニューヨーク韓人会長選でもパク・サン Cholの「無条件」を替え歌にした選挙ロゴソングが使われたという事例もあり、韓国人が住んでいれば海外でもトロットは響くという（キム・テハン 2010）。

また、選挙ロゴソングの制作費用としては、制作費、人格料、使用料を支出しないといけない。制作費は録音料、歌手料、改詞費用、編集費用などで制作会社によって差がある。人格料は作詞家・作曲家に払う費用で平均10万ウォンから300万ウォン程度を支払うことが知られている。複製使用料は韓国音楽著作権協会に支払い、選挙の種類・選出対象に応じて金額が定められている（キム・テハン 2010）。

キム・テハン（2010）はまた、選挙ロゴソングの歌は単純反復的で、歌が短く、核心政策と公約事項をシンプルに整理して、単純な核心単語により、有権者が簡単に分かって頂かないといけないとし、トロットが選挙ロゴソングに選好される要素として、次の3点を挙げている。

①理論的要素

なじみがあり、容易に音楽性を聞くことができる。強いテンポの2拍子か4拍子系列の歯切れある唱法が口に合い、音律がふしぶしよく離れていて候補達の名前を代入するのにたやすい。また歌の切り替えが明らかで、公約や政策、候補者の記号や名前などをよく挟み入れられる。馴染みあるメロディや反復的なリフレインも重要である。

②対象的要素

年齢別投票率は20～30歳代よりも50代と60代が高いが、トロットはこの世代に訴えられる。

③イメージの長寿

よく形成されたイメージは選挙で勝利するために重要で、政治的にも強い影響を与えることができる。興行で成功するトロットも時代を網羅して、トレンド性が濃い最新歌謡の寿命とは差別化でき、長生きである。

このように、トロットが選挙ロゴソングとして人気ある理由としては、その大衆性や汎世代性（世代を超えて人気があること）が指摘されている（キム・テハン 2010）。

選挙ロゴソングに使われるトロットに関しては、音響特性に関する研究報告もある。イ・ウニョンとペ・ミョンジン（2016）によれば、歴代選挙ロゴソングに使用された音源の中で「無条件」「シャバン・シャバン」「ゴンドゥレ マンドゥレ」といった新世代トロット11曲を選定して、歌詞伝達率（音源全体の時間のうち音節の数が占める比率）を求めたところ、平均49.5%だったという。

ここまで、選挙ロゴソングを俯瞰的な視点からまとめた研究を見てきたが、それに対して第15代大統領選において人気を博した金大中候補の「DJと一緒に」という選挙ロゴソングについて、その音楽性と歌詞内容を詳しく分析した研究が、キム・ウンギョンの「研究ノート：音楽の政治：ロゴソング「DJと一緒に」中に込められた公約を読む」である（キム・ウンギョン 1998）。

この中ではまず、大統領選のTVロゴソングの意味として、人気のある大衆歌謡を再構成している点が指摘されている。つまり、ポピュラー音楽を通して候補者のイメージを伝えることは、大衆音楽や大衆歌手の人気に候補者が便乗できる効果を得られるのである。「DJと一緒に」についても、その原曲であるDJ DOC「DOCと踊りを」のリズムとメロディからして、身近で気軽なイメージを植え付けるのによく、金大中候補のイメージを変えたことが一般的評価だと言う。さらに大衆歌謡の特徴である大衆媒体を介して伝達された点が役買っているということも指摘している。

次に、DJ DOCがヒップホップ、ギャングスター、ファンキーなど様々なジャンルのユニークな特性を逃さず大事にしながら、大衆性を一緒に考慮してバランスを追求することで評価されるグループであることを指摘した上で、なぜDJ DOCの曲が選ばれたのかという点について以下の三つに言及している。

第一には、20代の有権者を狙って、20代から人気を得ているグループの曲を元に「DJと一緒に」を制作したからである。視聴覚に敏感な世代である20代は、広告を介して歌と広告のターゲットを同一視する傾向が高く、このことから、この広告が若年層に大きく呼応を得た。

第二には、金大中が政治の庭で今の社会を批判するように、DJ DOCは大衆歌謡界という垣根で社会を批判し、社会的矛盾についてウイットを込めて歌で表現し好評を得たからである。また「DJ」という金大中の略称とグループ名の「DJ」も偶然にも一致した。

第三に、既成世代は支持政党か地域縁故で、悩むことなく投票先を決定できるが、若い層はそうではなく、候補に対して政治的信頼や斬新性を大切にしており、韓国の若者たちは、流動票となるだけでなく、お気に入りの候補が存在しない場合は投票不参加までするというそれまでの選挙での経験を振り返って、政治広告を制作したからである。

このように金大中が若年層の有権者に神経をとがらせなくてはならない最も簡単な理由は、彼が立候補した候補者の中で最高齢だったからであった。70代という年齢が大統領候補として致命的な弱点として浮上していたので、若年層のための政治広告を金大中候補が主演して制作することで、自然に年齢より若く、活気に満ちた候補の姿を描くことができる、という戦略だった。

そして、なぜ「DJと一緒に」が作られたのかについても、キム・ウンギョン（1998）は音楽と歌詞の両面から考察を加えている。

まず音楽的にみると、「DJと一緒に」という楽曲は原曲からリズムとメロディを変形させ、その広告に接触する有権者が歌いやすいように移調されている。つまり、変奏曲の特徴を有し、歌詞は変更され、曲

がパロディになっている。具体的には、以下のような点が指摘されている。

第一に、曲の特徴は原曲・選挙ロゴソングともに、1) 反復性がありシンプル、2) タイを使用した、歌詞のためのリズム構成、3) テンポを134にし、ゴーゴー風の速いリズムで軽快な感じを強調している。

第二に、「DJと一緒に」は曲の雰囲気をもより一層生かすために、ニ長調からイ長調に移調されているが、完全5度で移調されているので、全体的な曲の流れと雰囲気は移調される前の雰囲気をそのまま維持しながら、一般の人が口ずさみやすい調に変えてある。

一方、歌詞の変容については、原曲歌詞の核心部分を、候補者の心強いイメージと公約の核心である「経済再生」を強調するように歌詞を替えているのが大きな特徴だと述べている。具体的には、金大中候補のイメージと公約は「心強い大統領」「準備大統領」であり、核心的な単語とは「今回は記号2番」「DJ金大中」「心強く準備している経済大統領」であったが、このような核心的な単語を歌詞に入れていた。

また放送用と街頭遊説用とで、異なる歌詞に替えている点も指摘する。放送用のロゴソングは候補の名前を直接名指しするよりも「DJ」を使って迂回的に候補を強調した一方で、遊説用のロゴソングでは候補の名前自体をよく挿入して、露骨に候補を宣伝した。

さらにロゴソングの歌詞が原曲と比較してどう変えられたのかを分析して、「政権交代が必要な理由」、「国民の力でそれを行うことができる」、そして「心強い金大中候補が政権を執れば現在のすべての難局と問題（金融市場の混乱と通貨危機の克服、統一安保分野、教育改革）を克服できる」といった意味が込められていると読み解く。

金大中候補は他候補に比べ、20代前半の大学生と20代後半から30代前半にかけての会社員の高い支持と呼応を受けたが、これは金大中候補の当選に「DJと一緒に」が大きな影響を与えたことを意味する。さらに政治領域が芸術、特に音楽と結合した成果であり、選挙遊説や公約集を使用して候補と選挙方針を知らせる従来のやり方ではなく、やや柔らかく身近に有権者に近づくことができる、音楽を通じた「選択」という結果を示した。もはや音楽は美的満足のためだけに機能するのではなく、現代において政治は、音楽現象を社会的事実として求めることから出発し、開かれた政治を実現するための重要な触媒として認識されたのである（キム・ウンギョン 1998）。

5.3 今回の大統領選で使われた選挙ロゴソング

それでは、今回の大統領選においてはどのような選挙ロゴソングが用いられていたのか。ここでは文在寅候補と洪準杓候補が用いたロゴソングについて、筆者がフィールドワークの際に見聞した楽曲に、YouTubeで探し出した楽曲を加えてまとめてみた（ただしオリジナル曲と思われるものは除いた）（表14、15）。

これを見ると、どちらの候補も多様性に富む複数の選挙ロゴソングを使い分けて、用いていたことが分かる。

まず、楽曲の発売年を見ると、1970年代から最近のものまで幅広く採用されていて、10代から50代以上に至る広い世代の人々を選挙ロゴソングの対象にしていることが分かる。

歌手の性別についても男女を取り混ぜて偏りなくしており、楽曲のジャンルも童謡、健全歌謡、トロット、ダンス曲など織り交ぜられている。さらに「南行列車」や「釜山かもめ」、「ソウルの慕情」など、地域性がある楽曲も含んだ選曲になっている。

候補者別に見ると、文在寅候補はその選曲の多様性から、若年層を含む広い世代層にアピールしたいという意図が感じられる。これに対して洪準杓候補の陣営では歌謡曲やトロットが比較的多く選ばれており、同候補への支持が高かった中高年層へ訴求できるような曲揃えとなっている。

選挙ロゴソングは選挙遊説以外に、YouTubeのような動画サイトやツイッター、フェイスブック、カカオトークといったSNSにおいても拡散されていた。前述した韓国ギャラップの大統領選事後調査の結果では、選挙遊説を最も参考にした投票者は11%にすぎないが、フェイスブック、カカオトークといったSNS

(表14) 文在寅候補の選挙ロゴソング

歌手	タイトル	発売年	演奏形態	ジャンル
ナミ	永遠の友	1979	女性ソロ	歌謡曲
ムン・ソンジェ	釜山かもめ	1982	男性ソロ	トロット
キム・スヒ	南行列車	1987	女性ソロ	トロット
KOYOTE	純情	1999	男女混成グループ	ダンス曲
オム・ジョンファ	Festival	1999	女性ソロ	ダンス曲
DJ DOC	Run To You	2000	男性グループ	ヒップホップ
INFINITE	僕のものにしよう	2011	男性グループ	ダンス曲
レジュン	肝臓のせいだ	2011	男性ソロ	CM曲
BADKIZ	Ear Attack	2014	女性グループ	ダンス曲
TWICE	Cheer up	2016	女性グループ	ダンス曲
ホン・ジニョン	Thumb up	2016	女性ソロ	トロット
—	飛行機（日本の「メリーさんの羊」と同メロディー）	—	—	童謡
—	私達みんな皆一緒に（日本の「幸せなら手を叩こう」と同メロディー）	—	—	童謡

(注) 現地でのフィールドワークおよびYouTubeで採集した。オリジナル曲は除いた。

(表15) 洪準杓候補の選挙ロゴソング

歌手	タイトル	発売年	演奏形態	ジャンル
パティ・キム	ソウルの慕情	1973	女性ソロ	歌謡曲
チョン・スラ	ああ! 大韓民国	1983	女性ソロ	健全歌謡
パク・サン Chol	無条件	2005	男性ソロ	トロット
パク・ヒョンビン	あっ! 熱い	2010	男性ソロ	トロット
ハリ	キヨミソング	2013	女性ソロ	ダンス曲
MAMAMOO	Um Oh Ah Yeh	2015	女性グループ	ダンス曲
—	飛行機（日本の「メリーさんの羊」と同メロディー）	—	—	童謡

(注) 現地でのフィールドワークおよびYouTubeで採集した。オリジナル曲は除いた。

を最も参考にしていた投票者は12%で、19～29歳に限ると25%に上る。同様に、インターネットニュースを最も参考とした投票者も17%いたが、19～29歳に限ると27%になる。従って、オンラインメディアの情報を参考にする有権者、とりわけ若い有権者の耳目には、選挙ロゴソングはある程度届いていたものと思われる。

5.4 選挙ロゴソング歌詞の内容分析

上で見たように、今回の大統領選でも様々な選挙ロゴソングが用いられていたが、ここではその中から一曲を取り上げて歌詞内容についてくわしく考察してみたい。

分析する曲は、文在寅候補が用いていた男性グループINFINITEのヒット曲である「僕のものにしよう（ネッコハジャ）」の替え歌である。これは前述したように文在寅候補の勝利宣言集会の一番最後に、聴衆からのリクエストを受けて歌われるほど、人気があった曲のようである。

YouTubeの「共に民主党」チャンネルには、この「僕のものにしよう」の歌詞字幕入りミュージックビデオが投稿されている⁽⁷⁾ので、この字幕を和訳すると以下ようになる。

見守ってきたじゃない この国を 長い痛みを
また傷つくなら 投票をしてみて
みんな見て 文在寅を選択して そう
心強い大統領を選んで 国を国らしく

記号1番 文在寅に投票して オー
文在寅を選択して オー
国民を最後まで 責任を負うよ
記号1番 文在寅に投票して オー
文在寅を信じるじゃない オー
新しい公約を 守るよ

Do you hear me ... Do you hear me ... oh

(ラップ)

記号1番 とても心強い
文在寅を選択することを願って
国民の心が傾く候補 1番
文在寅に 今 投票して

この国を考えて 文在寅はいつもそうだった
国を国らしく 心強い大統領
投票してみて 私たちの未来のために
私の子供の未来のために 少なくとも私だけは アー

記号1番 文在寅に投票して オー
文在寅を選択して オー
国民を最後まで 責任を負うよ
一緒に行こう みんな投票して オー
文在寅を選択して オー
二度とあんなことは 見たくない

投票しよう 今は文在寅 オー
心強い文在寅 オー
国民を最後まで 責任を負うよ

(ラップ)

公約は守るか 言葉だけではないか
絶え間ない偽りの公約にいつも
信じられない選挙だけどあなたは投票して
信じてあげる 私の一票は文在寅
私は月のようにあなたの周囲を回り回って
火が消えてしまったこの国を再び生き返らせて

深く彫られてしまった傷を覆ってあげる
笑わせるよ 国民とみんな一緒に

これを見ると、原曲の歌詞をそのまま生かしている部分がある一方で、具体的な政策内容というよりは、候補者名や「投票して」という呼びかけ、投票記号が1番であることなどを繰り返し、歌詞に織り込んでいる。また、この曲にはラップの部分があるので、普通の歌詞だけの曲よりも、より多くの言葉の分量を歌詞の中に詰め込むことができる。「心強い大統領」というのは、遊説演説のなかでよく用いられたフレーズであり、金大中候補の選挙ロゴソングで用いられたフレーズでもある。

前に述べたように、韓国ギャラップの大統領選事後調査の結果では、文在寅候補への最も大きな投票理由として「積弊清算/改革/刷新」、「政権交代」、「人物/イメージがよい」といった項目が多く挙げられ、また公約や言葉で最も気に入った項目にも「積弊清算」や「国らしい国」が含まれていた。この「僕のものにしよう」の歌詞の中にも、「国を国らしく」といったフレーズが使われているほか、積弊清算や政権交代、候補者の人物像を示唆する表現も含まれており、文在寅候補の公約や人物を伝達するために機能していたものと思われる。

さて、この「僕のものにしよう」の和訳歌詞をテキストマイニングソフトの「KH Coder」(樋口 2014)を用いて内容分析した結果を以下に示す。

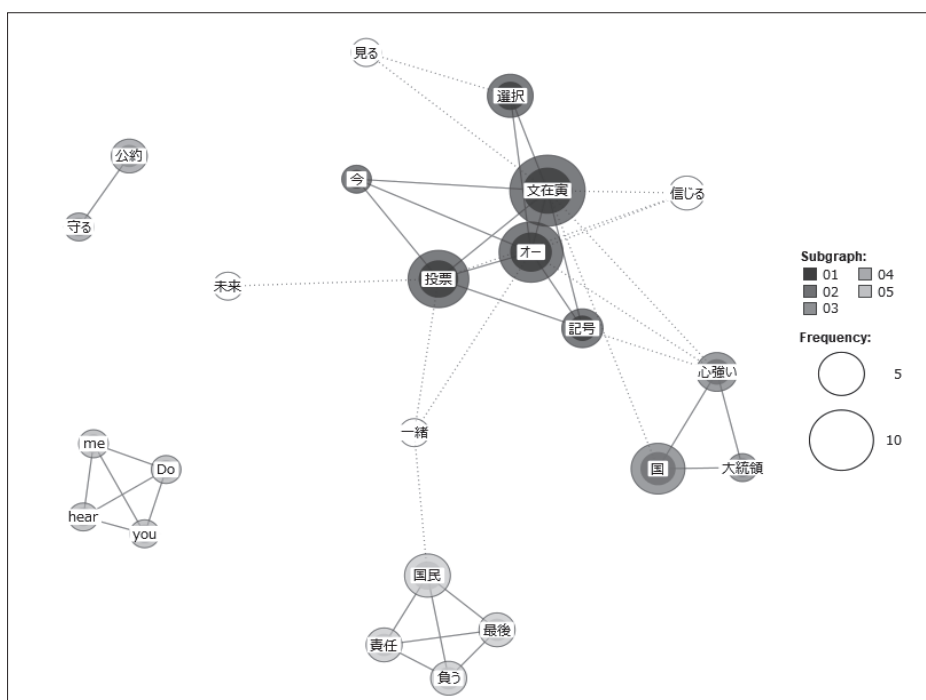
まず、語の出現回数を調べてみると「文在寅」が14回と最も多く、「投票」が9回、「国」が7回、「国民」が5回と続く。また、原曲でも使われている「オー」という間投詞も10回出現しており、原曲の雰囲気を残すために役立っている(表16)。

続いて、共起ネットワーク分析を行ったところ、候補者名である「文在寅」とは、「投票」「選択」「記号」「今」「オー」といった言葉と一緒に歌われており、文在寅に投票しようというメッセージが全面に押し出されたものとなって

(表16) 選挙ロゴソング「僕のものにしよう」和訳歌詞の出現語

抽出語	出現回数
文在寅	14
オー	10
投票	9
国	7
国民	5
選択	5
記号	4
心強い	4
公約	3
最後	3
信じる	3
責任	3
負う	3
Do	2
hear	2
me	2
you	2
一緒に	2
回る	2
見る	2
今	2
守る	2
大統領	2
未来	2

(注) 出現回数2回以上の語のみ記載。
「その他」「HTML」以外の品詞を投入。
「文在寅」を強制抽出語に指定した。



(図14) 共起ネットワーク分析の結果

(注) 集計単位は「文」、最小出現数は2、使用した品詞はKHcoderの既定値を使用。サブグラフ検出(modularity)。

いる。また、「心強い」「大統領」や「国（を国らしく）」、「国民」「最後（まで）」「責任」「負う」、「公約」「守る」といった語が一緒にまとまって歌われることで、国政を混乱させ、任期途中で罷免・逮捕された朴槿恵前大統領に対する批判を込めたメッセージが、この選挙ロゴソングの歌詞の中に明確に含まれていたことも考察できる（図14）。

6. おわりに

本論文では、2017年に行われた韓国の第19代大統領選挙におけるフィールドワーク結果を元に、世論調査結果の考察、投票所来場者の行動観察と決定木分析、選挙ロゴソングの内容分析をここまで行ってきた。

改めて、今回の韓国大統領選のフィールドワークを振り返って印象的だったことは、まず、集まった人々の性差や世代にあまり偏りが見られなかったことである。事前投票所の行列も、投票日の投票所来場者も、開票速報を見物にきた観客も老若男女が一同に集まっていた、日本の選挙現場のように「この性別の、この世代が多い」といった見極めがつけづらかったのである。選挙遊説においても、保守系候補では高年者の聴衆が多かったものの、当選した文在寅候補の遊説現場では、幅広い世代の聴衆が集まっていた。

もう一つ、印象的だった点は、選挙遊説現場の熱気や雰囲気といったものであった。それは、日本のように街宣車の上から弁士が見下ろすように演説して、聴衆は下で黙って聞く、というよりも、弁士と聴衆が一体となって、掛け合いや歌や踊りで作り上げているイベント空間であり、お祭りや野球の応援、K-POPコンサートのような「アウラ」が感じられる場であった。そして、ビルの壁一面に張り出されていた、候補者の顔写真が載った巨大な垂れ幕も、普段通りの生活が営まれている街の中で異彩を放ち、選挙の祝祭感や非日常性を醸し出していた。

これらの現象は、一体どこから生じているのだろうか。

最初に挙げた、集まった人々の性差や世代にあまり偏りが見られなかったことについては、若年層の選挙参加の多さによるものと考えられよう。

例えば、若いカップル同士で投票所に来る姿が見られたり、子供連れで選挙遊説や選挙イベントに来る姿が見られたのも、若年層の参加が多かったことの現われだろう。また、他の世代と一緒に投票所に来る場合でも、その中に若年層が混ざっている傾向があることが、投票所来場者の決定木分析から明らかになっている。さらに大統領選の世代別投票率を過去と比べてみると、今回の大統領選では、これまで20代後半層を中心に見られていた投票率の落ち込みが底上げされており、これが全体の投票率向上にもつながっていることが分かる。

このように若年層が選挙の現場に多く現われたことが、そこに集まった人々の世代的な偏りを目立たなくしたのであろう。若者の低投票率が問題となっている日本の選挙現場に慣れていればなおさら、その違いが目につくはずである。

前述した韓国ギャラップの大統領選事後調査の結果では、「文在寅候補が掲げた公約や言葉で最も気に入ったこと」の筆頭に「経済/働き口」という回答が挙がっていた。このことから分かるように、韓国では就職難が大きな社会問題の一つとなっている。こういったことも若者の政治参加が高い理由となっているのかも知れない。

もう一つ、印象的な点として上に挙げた選挙遊説現場の熱気や雰囲気についてはどうだろう。これには、韓国の選挙運動に見られる大衆性や汎世代性といった特徴が作用しているように思われる。

韓国の選挙運動を特徴づけている「選挙ロゴソング」という選挙宣伝手法は、公約や候補者の名前や投票記号など、核心となる言葉をシンプルかつ反復的に伝えられるツールであり、場所や用途に合わせてその曲や歌詞を使い分けるものであった。さらに各世代のヒット曲の替え歌を使うことで、原曲や歌手の人気やイメージを候補者のそれに付加し、大衆性や汎世代性を付加できるという特徴があった。金大中候補の「DJと一緒に」では、誰でも歌いやすいように移調まで行う音楽的工夫がなされていたが、これも大衆が歌い広めることを前提に、選挙ロゴソングが作られていたからであろう。

思い返せば、この「DJと一緒に」も若年層からの得票を狙った選挙宣伝であったが、今回の大統領選においても、特に文在寅候補の選挙ロゴソングは若年層を含む幅広い世代のヒット曲から選曲されており、幅広い有権者層から票の掘り起こしを狙っていたと思われる。

選挙ロゴソングに見られるこのような大衆性や汎世代性への指向は、韓国の選挙運動全体にも通底しているものなのであろう。「選挙」という非日常性の中で、大衆としての有権者を巻き込み、取り込んでいこうとする社会運動としての選挙運動の姿が、そこにはある。

この点に関しては、選挙に対するマスコミの報道姿勢が寄与する部分も少なくないだろう。今回の選挙では選管主催の選挙啓発イベントだけでなく、テレビ局も独自に選挙啓発イベントを開催していたが、ここでは大統領候補をヒップポップ歌手に模して立て看板にしていた。もしこのようなことを日本のテレビ局が行えば、どこかに怒られそうな話である。また、テレビのニュース番組を見ても、抑制的な日本の選挙報道とは異なり、主要候補の選挙運動の動静は連日報道されていた。このようにニュース報道などを通じて、選挙運動の様子が国民に届きやすく、「メディア・イベント」としても共有されやすいのではなかろうか。

ここまで今回の大統領選における若年層の選挙参加の多さや、選挙運動に見られる大衆性、汎世代性について述べてきたが、最後に国家元首を自分の投票で直接選ぶことができる大統領選挙という制度そのものが、投票率や政治関心の高さにつながっている側面にも触れておきたい。

水島（2018）は、韓国では投票率がとりわけ大統領選挙については高いことに関して、長い権威主義体制から民主化を勝ち取った経験があるからこそ、国民ひとりひとりが選挙の重要性を強く認識しているのかもしれないと述べている。これに関して、韓国の民主化抗争を描いたチェ・ギョソクの漫画「増補版 沸点－ソウル・オン・ザ・ストリート」の最後は、以下のような文章で終わっている。

数知れない人々の流した血と涙－

奪われた青春と生命－

私たちは、その代価として－

大切な一枚の白い紙を手に入れました。

苦痛を受けた者は苦痛が去ることを願い、
眠る場所さえない者は安らげる場所を求め、
差別を受けた者は平等な扱いを…、

みんながそれぞれの夢を託していたけど、

私たちが得たものは、まだ何も描かれていない、ただ一枚の白い紙でした。

乱暴に扱えばしわくちゃなゴミになってしまうし、
少し目を離しているあいだに
誰かに落書きされてしまうかも知れない

でも

それがなくては夢見ることもできない、
破れやすいけれど大切な、

そんな白い紙なのです。

（チェ・ギョソク、加藤（訳）2016）

ここには、大統領の直接選挙制実現こそが「民主主義」そのものであった、韓国の民主化の歴史が端的に示されている。このような認識が今日でも、大統領選に際して高い投票率や政治の有効感の根底にあるのかもしれない。

とりわけ、今回の大統領選は、「ろうそく集会」によって前政権を退陣させるという政治変動を成功させた直後に行われたので、国民の政治的関心や政治の有効感も高かっただろうし、政治参加意識の高さが、政治的支持を公言する度合いの高さ（これは普段からの市民デモの多さにも通じるだろう）や、政党支持なし層の少なさにもつながっているのだろう。

そして「選挙ロゴソング」という政治文化もまた、金大中大統領の当選という韓国の民主化の歴史の中で大きく成長したアイコンの一つと言えるのではなかろうか。

7. 注

- (1) 제19대 대통령 선거 사후 조사 (揭示日2017年5月12日) (<https://www.gallup.co.kr/gallupdb/report.asp> 2019年8月28日取得)
- (2) 데일리 오피니언 제258호 (2017년 5월 7~8일) - 대선후보지지도, 예상득표율, 정치 관련 인식 (揭示日2017年5月9日) (<https://www.gallup.co.kr/gallupdb/report.asp> 2019年8月28日取得)
- (3) これ以外に自動車2台とオートバイ1台が投票所の敷地へ入ったが、乗っていた人の性別や人数が分からなかったので除外した。
- (4) <https://www.cs.waikato.ac.nz/ml/index.html>
- (5) <http://www.donga.com/jp/article/all/20170418/900289/1>/大統領選候補のロゴソングの政治学 (2019年8月29日取得)
- (6) 한국민족문화대백과사전「진전가요」 <http://encykorea.aks.ac.kr/> (2019年9月14日取得)
- (7) 문재인 로고송 - 내꺼하자 https://www.youtube.com/watch?v=a_t7QV8iLZM (2019年8月29日取得)

8. 引用文献

- チェ・ギョソク、加藤直樹（訳）2016 増補版 沸点—ソウル・オン・ザ・ストリート ころから
樋口耕一 2014 社会調査のための計量テキスト分析 ナカニシヤ出版
- 亀ヶ谷雅彦 1998 アナウンスメント効果の「間接効果」の実証に関する試み 選挙研究 13 71-86
- 亀ヶ谷雅彦 2018a 三世代同居と投票率に関するフィールドワーク的研究 山形県立米沢女子短期大学
生活文化研究所報告 45 37-52
- 亀ヶ谷雅彦 2018b 三世代同居と投票率に関するフィールドワーク的研究（2）山形県立米沢女子短期
大学紀要 54 65-78
- 水島玲央 2018 韓国 大林啓吾・白水隆（編著）世界の選挙制度 三省堂 190-210
- 山田圭則 2017 CLAIR海外だより＜ソウル事務所＞韓国大統領選挙 自治実務セミナー 663 66-68
- 山下将史 山田圭則・信夫秀紀（監修）2018 大韓民国の第19代大統領選挙 Clair Report 470 (<http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/470.pdf> 2019年8月28日取得)。
- 김대한 2010 트로트음악과 선거의 연관관계:선거 로고송으로 트로트가 선호되는 요소분석 (학위논문 (석사) 상면대학교 대학원:뉴미디어음악학과 뉴미디어음악전공)
- (キム・テハン 2010 トロット音楽と選挙の連関関係：選挙ロゴソングとしてトロットが選好される要素分析 (修士論文・祥明大学校大学院：ニューメディア音楽学科ニューメディア音楽専攻)
- 김은경 1998 연구노토:음악의정치:로고송<DJ와 함께>속에 담긴 공약 읽기 정치비평4권 270-286
(キム・ウンギョン 1998 研究ノート：音楽の政治：ロゴソング「DJと一緒に」中に込められた公

約を読む 政治批評 4 270-286)

이은영 배명진 2016 선거 로고송의 음향 특성에 관한 연구 한국컴퓨터정보학회 동계학술대회 논문집 제24권 제1호 217-218

(イ・ウニョン、ペ・ミョン진 2016 選挙ロゴソングの音響特性に関する研究 韓国コンピュータ情報学会冬季学術大会論文集 24 (1) 217-218)